

指導のねらい

この単元では、てんびんやてこのはたらきを利用した道具のしくみやはたらきに対する科学的な見方や考え方を養うことをねらいとしている。

本時は、てんびんやてこの道具を使っの活動を通して、つり合いの意味や規則性についての見方や考え方を実験などの体験を通して理解させる。

読解力向上のための手立て

(1)「指導方法」(単元全体を通して)

- ・読解力を培う学習を個々が意欲的、主体的に展開できるよう、小単元の学習順序を選択し自由進度で学習を進めていく、**ワークプリント**を使った学習スタイルをとる。
- ・表現、記述したことが、教師から個別に素早く評価される場面を設定する。

(2)「指導内容」(本時)

- ・テキスト(自然の事象)についてじっくり見、読み、考え、内容を解釈した後、自分の考えを整理し、まとめ書きあげる場面を設定する。

学習活動(つり合い・規則性・てこの利用 について各自課題を解決する)

- (1) 導入 てんびんとてこの仕組みについて、
ワークプリントを使って追究していく
ことを確認する。

- (2) 展開 各自が計画に従って学習をしていく。

- ・「どんなときにてんびんはつり合うのだろうか」
つり合う状況を予測し自分の考えを**ワークプリント**
に書く。テキストからつり合うときのきまりを読み取る。



テキストにまとめ書き上げる

- ・「重さが違うおもりでも棒をつり合わせることができるだろうか」
てこの規則性を予測し、てこを用いて結果を記録し、
てこの規則性を見だし、**ワークプリント**に書き表す。

学習指導案 p 30

- ・「軽い力でも重いものを持ち上げることができるだろうか」
支点、力点、作用点の位置関係で変化するという見方や考え方をし、
ワークプリントに書き表す。

- (3) まとめ テキストを読んだ場面やテキストに基づいて自分の考えを書いた場面でその都度教師にその学習の成果を伝える。

読解力を向上させる指導のポイント

- ・テキスト(自然の事象)とじっくり対話する時間と場面を用意する。
- ・自分の予想や実験結果、理解したこと等テキストと対話した結果を児童一人一人が発表したり記述したり表現できるような場面を用意する。
- ・児童一人一人が表現したことを、教師が個別に素早く評価する。